資料　４

第６回新宿区高齢者保健福祉推進協議会作業部会　議事概要

（平成２８年１２月１６日開催）

＜支え合いのしくみづくりについて＞

・国における議論では、地域包括ケアを卒業して、「地域共生社会」という次の段階に進み始めている。障害者、子ども、生活困窮者に対する施策など切り離すべきではない。それぞれを多世代が支えて、お互いの持っているものをシェアして支え合うという形にしていかなければならないのではないか。

・地域のコミュニティが崩れる中、支え合いのしくみにおけるリーダー的な人材を養成していく必要がある。

・重度化してから発見されるのが、一人暮らしの多い地域での課題だ。地域のネットワークができていれば、困っている人を網の目で支えることができ、重度化しないで済む。

＜健康づくり・介護予防について＞

・介護予防は、どのような施策を実施すれば効果があって、それが実績として出ているのか。成果が出ることを重点的に行っていく必要があるのではないか。その基となるデータが必要であろう。例えば、転倒した人の地域別、年齢別のデータなど。

・介護予防に関心を持っていない人に、どうやって関心を持ってもらうかを検討することが大切である。介護予防に全く関係のない講座を公共施設で開催し、困った時には相談する場所があるということを認識してもらうような形はどうか。

・活動の場として、小学校をもっと利用するべきではないか。

・地域ケア会議は、地域の実情を把握するのに重要なツールである。特に、健康づくりや介護予防という面では、それぞれの地域に合った方法を把握する必要がある。

＜認知症施策について＞

・認知症サポーター養成講座について、小学校のイベントに合わせて行っている自治体がある。そのような形をとることで、無関心層にも関心を持ってもらうことができる。また、待ち時間の長い病院でも講座を行えるのではないか。

＜その他＞

・地域で困っている住民の情報を吸い上げる仕組みが必要である。職業上、住民に接する機会が多い人の声を聞くことも大切だろう。

・サロンの場所をＰＲするような活動をしていただきたい。